

## 社会福学科 社会福祉専攻 1年 後期 専門科目

1. ソーシャルワークの理論と方法 I
2. ソーシャルワークの理論と方法 II
3. 貧困に対する支援
4. ソーシャルワーク演習 II
5. ソーシャルワーク実習指導 II
6. ソーシャルワーク実習 I
7. ソーシャルワーク特講
8. 臨床美術
9. 表現アート演習 I
10. 心理学基礎実験
11. 心理学基礎実習
12. カウンセリング基礎理論
13. 心理検査法

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: ソーシャルワークの理論と方法 I				担当教員 氏名: 門田 晋	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 後期	専門科目	講義	必修	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 実務経験でのソーシャルワークを生かして授業を行う					
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
①ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 ②コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 ③ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。				ソーシャルワーク 利用者主体 権利擁護	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		
			1. 2. 6. 8. 9		
A 知識・理解力	利用者支援のための理論と知識を総合的に理解することができる				
B 専門的技術	利用者をアセスメントしたり支援計画作成の技術等を身につけることができる				
C 論理的思考力	疾病、障害から生活レベルを想定することで支援の論理性を培うことができる				
D 問題解決力	理論や実践を理解することで問題を解決する力を身につけることができる				
G 倫理観	援助に必要な倫理について考察することができる				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 50 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: その他とは、授業へのとり組み状況、態度のことである。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、 <u>ディベート</u> <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート返却時のコメント、eメール等によってアドバイスをを行う					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①現代社会とソーシャルワーク実践			【事前】第1章人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークを読む 【事後】第1章人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークをレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
②ソーシャルワーク技術の活用と意義			【事前】第1章人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークの第1～3節を読む 【事後】第1章人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークの第1～3節をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
③ソーシャルワークの構造と機能			【事前】第1章人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークの第1～3節を読む 【事後】第1章人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークの第1～3節をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
④援助関係と援助			【事前】第2章ソーシャルワークの過程を読む 【事後】第2章ソーシャルワークの過程をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑤援助関係の質と自己覚知			【事前】第2章ソーシャルワークの過程を読む 【事後】第2章ソーシャルワークの過程をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑥ソーシャルワーク事例検討① ケース発見			【事前】第2章ソーシャルワークの過程を読む 【事後】第2章ソーシャルワークの過程をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑦ソーシャルワーク事例検討② アセスメント			【事前】第3章ソーシャルワークの過程-アセスメント-を読む 【事後】第3章ソーシャルワークの過程-アセスメント-をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑧ソーシャルワーク事例検討③ 目標設定・支援計画の作成と実施			【事前】第4章ソーシャルワークの過程-プランニング-を読む 【事後】第4章ソーシャルワークの過程-プランニング-をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑨ソーシャルワーク事例検討④ モニタリング～再アセスメント～終結			【事前】第5、6章を読む 【事後】第5、6章-レポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑩ケアマネジメントの技法			【事前】第10章ケアマネジメントを読む 【事後】第10章ケアマネジメントをレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑪記録の技法			【事前】第9章ソーシャルワークの記録を読む 【事後】第9章ソーシャルワークの記録をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑫集団を活用した援助(グループワークの意義、目的、原則等)			【事前】第11章グループを活用した支援を読む 【事後】第11章グループを活用した支援をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑬コミュニティワークの技法(意義、目的、展開)			【事前】第12章コミュニティワークを読む 【事後】第12章コミュニティワークをレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑭スーパービジョンとコンサルテーション			【事前】第15章スーパービジョンとコンサルテーションを読む 【事後】第15章スーパービジョンとコンサルテーションをレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑮まとめ			【事前】テキスト全体、資料の確認 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座12ソーシャルワークの理論と方法(中央法規) ISBN: 978-4-8058-8242-9			その他参考文献など: ソーシャルワーク論 空閑浩人 ミネルヴァ書房 社会福祉学習双書2021第10巻ソーシャルワークの理論と方法(社会福祉法人全国社会福祉協議会)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 事前・事後学習において、テキストだけでなく、参考文献や授業で紹介した本、論文等にも目を通し考察を行ってください。					

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ				担当教員 氏名: 門田 晋	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 後期	専門科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 実務経験を活かし事例分析やロールプレイ等を用いてソーシャルワークアプローチの活用方法を学ぶ					
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
①人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 ②ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。				診断主義アプローチ、機能主義アプローチ、問題解決アプローチ、エコロジカルアプローチ、ストレングスモデル、エンパワメントアプローチ	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号) 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10		
A 知識・理解力	ソーシャルワーク・アプローチの歴史的背景や概念等を理解する				
B 専門的技術	ソーシャルワーク・アプローチを用いてクライアントを多角的に理解する技術を身につける				
C 論理的思考力	ソーシャルワーク・アプローチを使ってクライアントが置かれている環境等を論理的に説明できる力を養う				
D 問題解決力	理論や実践を理解することで問題解決の力を身につける				
G 倫理観	ソーシャルワーク理論の根底にある専門職倫理を常に意識し実践力を身につける				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 80 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %	
特記事項: 上記「その他」においては、授業中の態度などで評価する。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてディスカッション、ディベートグループワーク・プレゼンテーションを行う。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは毎回提示、中間レポートは第7回目、期末テストは別に定めた日時に実施。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートと中間レポートはABCD評価、期末テストは100点満点で採点し返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(システム理論、生態学理論)			【事前】第1章人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークの第1～3節を読む 【事後】第1章人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークの第1～3節をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
②人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク)			【事前】第1章人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークの第4～6節を読む 【事後】第1章人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークの第4～6節をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
③さまざまな実践モデルとアプローチⅠ 治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル			【事前】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを読む 【事後】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチをレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
④さまざまな実践モデルとアプローチⅠ ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル			【事前】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを読む 【事後】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチをレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑤さまざまな実践モデルとアプローチⅡ 心理社会アプローチ			【事前】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを読む 【事後】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチをレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑥さまざまな実践モデルとアプローチⅡ 機能的アプローチ			【事前】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを読む 【事後】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチをレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑦さまざまな実践モデルとアプローチⅡ 問題解決アプローチ			【事前】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを読む 【事後】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチをレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑧さまざまな実践モデルとアプローチⅡ 課題中心アプローチ			【事前】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを読む 【事後】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチをレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑨さまざまな実践モデルとアプローチⅡ 危機介入アプローチ			【事前】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを読む 【事後】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチをレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑩さまざまな実践モデルとアプローチⅡ 行動変容アプローチ			【事前】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを読む 【事後】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチをレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑪さまざまな実践モデルとアプローチⅢ エンパワメントアプローチ			【事前】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを読む 【事後】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチをレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑫さまざまな実践モデルとアプローチⅢ ナラティブアプローチ			【事前】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを読む 【事後】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチをレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑬さまざまな実践モデルとアプローチⅢ 認知アプローチ			【事前】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを読む 【事後】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチをレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑭さまざまな実践モデルとアプローチⅢ その他のアプローチ			【事前】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを読む 【事後】第7章ソーシャルワークの実践モデルとアプローチをレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑮事例分析			【事前】事例分析に関する当該資料を読む 【事後】事例分析に関する当該資料をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座12ソーシャルワークの理論と方法(中央法規)ISBN: 978-4-8058-8242-9			その他参考文献など: ソーシャルワークの実践モデル-心理社会的アプローチからナラティブまで- (川島書店) 久保統章 副田あけみ 編著 社会福祉学習双書2021第10巻ソーシャルワークの理論と方法(社会福祉法人全国社会福祉協議会)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ソーシャルワークの倫理綱領内にも経験に頼る援助はよりよい援助になり得ないと明記されていることから、ソーシャルワークを実践する上でしっかりとソーシャルワーク・アプローチ等について学びましょう。					

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 貧困に対する支援				担当教員 氏名: 根津 敦		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)
実務経験を用いてどのよう生活困窮者支援の経験を通し、生活保護法の目的、基本原理、基本的な仕組みについてわかりやすく説く授業を行っているか、明します。生活困窮者の人権や関係機関との連携の在り方、相談支援等の実際についても学習します。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。</li> <li>・貧困の歴史と貧困観の変遷と、貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。</li> <li>・貧困による生活課題を踏まえ、適切な支援のあり方を理解する。</li> </ul>					絶対的貧困、相対的貧困、社会環境、貧困観、生活保護法、生活困窮者自立支援法	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 6. 9. 10	
A 知識・理解力			貧困の歴史と貧困観の変遷を理解する。			
C 論理的思考力			貧困状態にある人の生活実態と取り巻く社会環境を理解する。			
D 問題解決力			貧困による生活課題を踏まえ、適切な支援のあり方を理解する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 0 %		レポート: 80 %		発表: 0 %		実技試験: 0 %
その他: 20 %						
特記事項: 課題に対しテキストからの引用だけでなく、自分なりの見方、考え方に触れてあるものを評価する。その他出席態度を評価。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習    ディスカッション、ディベート    グループワーク    プレゼンテーション    実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回の授業でレポートを課します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 授業の中でレポートの論点解説、確認をする。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①オリエンテーション、貧困の概念				【予習】テキストを読む 【復習】①の復習	【予習】120分 【復習】120分	
②公的扶助の意義と範囲				【予習】テキストを読む 【復習】②の復習	【予習】120分 【復習】120分	
③貧困状態にある人の生活実態				【予習】テキストを読む 【復習】③の復習	【予習】120分 【復習】120分	
④貧困状態にある人の社会環境				【予習】テキストを読む 【復習】④の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑤福祉の理念と貧困観の変遷				【予習】テキストを読む 【復習】⑤の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑥貧困の歴史				【予習】テキストを読む 【復習】⑥の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑦貧困に対する法制度				【予習】テキストを読む 【復習】⑦の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑧生活保護法				【予習】テキストを読む 【復習】⑧の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑨生活困窮者自立支援法、低所得者対策				【予習】テキストを読む 【復習】⑨の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑩ホームレス対策				【予習】テキストを読む 【復習】⑩の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑪貧困に対する国・都道府県・市町村の役割				【予習】テキストを読む 【復習】⑪の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑫福祉事務所、相談機関の役割				【予習】テキストを読む 【復習】⑫の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑬社会福祉士と関連する専門職等の役割				【予習】テキストを読む 【復習】⑬の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑭貧困に対する支援の実際				【予習】テキストを読む 【復習】⑭の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑮授業のまとめと振り返り				【予習】テキストを読む 【復習】⑮の復習	【予習】120分	
使用テキスト: 最新・社会福祉士養成講座「専門科目」④『貧困に対する支援』、編集委員: 岡部卓・新保美香・行實志都子・六波羅詩朗、中央法規 978-4-8058-8247-4				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 近年、低所得者、生活困窮者の支援について大きな変化があります。例えば、コロナ禍が貧困問題をより多くの人々に影響を与え、より複雑化をし、より深刻化しています。新聞、テレビ等の報道からも新たな取り組みを理解していく必要があります。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: ソーシャルワーク演習Ⅱ			担当教員 氏名: 松尾 祐子、中村 尚紀						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	1年次	後期	専門科目	演習	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士・精神保健福祉士としての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった事例などを用いて支援方法を体験的に学ぶ授業を行っている。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、価値規範を理解し倫理的な判断能力を養う。また、支援を必要とする人を中心とした総合的・包括的な支援や実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。					対象の理解、倫理綱領、ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7				
A 知識・理解力			ソーシャルワークに必要な知識と技術を統合して理解する。						
C 論理的思考力			当事者が直面する問題を複眼的論理的に分析できる。						
E 自己管理能力			常に自らを律して、他者とコミュニケーションができる。						
G 倫理観			ソーシャルワークの価値規範を理解し論理的な判断能力を養う。						
H コミュニケーション力			ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: 演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価する。原則的に100%の出席を求める。その他とは授業態度・姿勢のことである。アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッション・ディベート・プレゼンテーションを行う。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で適時案内する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートは評価やコメントを付けて返却する。									
使用テキスト: 現場で役立つ! 社会保障制度活用ガイド 978-4-8058-5950-6 福祉小六法 978-4-8058-3925-6 現代社会福祉用語の基礎知識 978-4-7620-2174-9				その他参考文献など: 田中英樹・中野伸彦「ソーシャルワーク演習のための88事例」中央法規					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
回数									
1	オリエンテーション				【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分			
2	ソーシャルワークの対象の理解				【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分			
3	倫理綱領に基づいた支援				【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分			
4	事例学習①児童分野				【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分			
5	事例学習②障害分野				【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分			

※前ページよりつづき

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名: ソーシャルワーク演習Ⅱ		担当教員 氏名: 松尾 祐子、中村 尚紀	
授業計画		準備学習(予習・復習等)	
		学習内容	学習に必要な時間(分)
6	事例学習③高齢分野	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
7	事例学習④その他	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
8	事例学習⑤虐待	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
9	事例学習⑥ひきこもり	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
10	事例学習⑦貧困	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
11	事例学習⑧認知症	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
12	事例学習⑨終末期	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
13	事例学習⑩災害	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
14	事例学習⑪その他の危機にある人	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
15	中間のまとめと振り返り	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
16	実践モデルとアプローチ	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
17	ソーシャルワークの展開過程	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
18	ケースの発見	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
19	インテーク演習	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
20	アセスメント演習①	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
21	アセスメント演習②	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
22	プランニング演習①	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
23	プランニング演習②	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
24	支援の実施の演習①	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
25	支援の実施の演習②	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
26	モニタリング(再アセスメント含む)	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
27	支援の終結	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
28	事後評価	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
29	アフターケア	【予習・復習】レポート作成	予習120分 復習120分
30	授業のまとめと振り返り	【予習・復習】レポート作成	復習240分

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: ソーシャルワーク実習指導Ⅱ			担当教員 氏名: 中村 尚紀 松尾 祐子 鷹西 恒		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門科目	演習	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような社会福祉士・精神保健福祉士としての実務経験を活かして、実習先の福祉現場の実状にそった事例などを用いて支援方法を体験的に学ぶ授業を行っている。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。					ソーシャルワーク 知識と技術 スーパービジョン
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力	実習する分野についての知識と実習施設についての理解をすることができる。				
B 専門的技術	実習する分野における当事者理解や援助技術を進めることができる。				
E 自己管理能力	実習に関する提出物や施設への調整連絡などの実習業務管理ができる。				
G 倫理観	実習現場に置いてソーシャルワークの価値と倫理に従って行動できる。				
H コミュニケーション力	利用者や実習指導者等と適切なコミュニケーションを実践できる。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート: 60 %	発表: 20 %	実技試験:	% その他: 20 %
特記事項: その他とは、授業規範の遵守、態度、姿勢のことである。アクティブラーニングとしてグループ学習・発表があります。					
アクティブラーニング要素 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> <u>実習、フィールドワーク</u>					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 評価を付けてレポートを返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①オリエンテーション(実習の意義等)【中村、松尾、鷹西】			【事前】第1章のソーシャルワーク実習の目的と構造を読む 【事後】第1章のソーシャルワーク実習の目的と構造をノートにまとめる	【予習】60分	【復習】60分
②実習配属先(施設・事業所等)に関する基本的な理解と実習計画書の作成Ⅰ(三者面談)【中村、松尾、鷹西】			【事前】第3章実習決定後の準備の第1、2節を読む 【事後】第3章実習決定後の準備の第1、2節をノートにまとめる	【予習】60分	【復習】60分
③実習配属先(施設・事業所等)に関する基本的な理解と実習計画書の作成Ⅱ(面談指導)【中村、松尾、鷹西】			【事前】第3章実習決定後の準備の第3節を読む 【事後】第3章実習決定後の準備の第3節をノートにまとめる	【予習】60分	【復習】60分
④実習記録(日誌)の書き方及び方法の理解【中村、松尾、鷹西】			【事前】第2章実習先決定に向けた準備の第2節を読む 【事後】第2章実習先決定に向けた準備の第2節をノートにまとめる	【予習】60分	【復習】60分
⑤実習配属先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解【中村、松尾、鷹西】			【事前】第6章実習の実際の第11節を読む 【事後】第6章実習の実際の第11節をノートにまとめる	【予習】60分	【復習】60分
⑥2年生のソーシャルワーク実習報告会へ参加【中村、松尾、鷹西】			【事前】実習報告書及び第5章実習後の学習の第3節を読む 【事後】実習報告会等の内容をレポートにまとめる	【予習】60分	【復習】60分
⑦実習における個人のプライバシー保護、守秘義務及び倫理【中村、松尾、鷹西】			【事前】第4章実習中の学習の第4節を読む 【事後】第4章実習中の学習の第4節をノートにまとめる	【予習】60分	【復習】60分
⑧実習における注意事項と留意点【中村、松尾、鷹西】			【事前】第4章の実習中の学習の第3節を読む 【事後】第4章の実習中の学習の第3節をノートにまとめる	【予習】60分	【復習】60分
⑨巡回指導【中村、松尾、鷹西】			【事前】第4章の実習中の学習の第1節を読む 【事後】第4章の実習中の学習の第1節をノートにまとめる	【予習】60分	【復習】60分
⑩実習課題の整理とスーパービジョン【中村、松尾、鷹西】			【事前】第4章の実習中の学習を読む 【事後】第4章の実習中の学習をノートにまとめる	【予習】60分	【復習】60分
⑪実習課題の整理と実習報告書の作成Ⅰ【中村、松尾、鷹西】			【事前】第5章の実習後の学習の第5節を読む 【事後】第5章の実習後の学習をノートにまとめる	【予習】60分	【復習】60分
⑫実習課題の整理と実習報告書の作成Ⅱ【中村、松尾、鷹西】			【事前】第5章の実習後の学習の第5節を読む 【事後】第5章の実習後の学習をノートにまとめる	【予習】60分	【復習】60分
⑬ソーシャルワーク実習Ⅰ報告会【中村、松尾、鷹西】			【事前】実習報告書と第5章の実習後の学習の第5節を読む 【事後】実習報告書等の内容をレポートにまとめる	【予習】60分	【復習】60分
⑭実習の振り返りとソーシャルワーク実習Ⅱを踏まえた事後学習【中村、松尾、鷹西】			【事前】第5章の実習後の学習の第2節を読む 【事後】第5章の実習後の学習の第2節をノートにまとめる	【予習】60分	【復習】60分
⑮まとめ(ソーシャルワーク実習Ⅱ配属のための面談等)【中村、松尾、鷹西】			【事前・事後】授業で学んだことを復習し、まとめる	【予習】60分	【復習】60分
使用テキスト 最新社会福祉士養成講座8ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習(中央法規)ISBN: 978-4-8058-8251-1 ソーシャルワーク実習指導要綱、その他適宜資料を配布する。			その他参考文献など: 社会福祉士受験資格科目の授業テキスト 福祉小六法 現代社会福祉用語の基礎知識		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習計画においては、担当教員と実習指導者との連携のもと、三者協議の場を設け、最終的な計画書を策定する。原則として全授業に出席すること。レポート等の締め切りを守って提出をしなければ、本単位は認定されないの、十分な覚悟の上履修してほしい。なお、2年次の実習については、授業成績が一定以上の者に限って認めるものである。					

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: ソーシャルワーク実習 I			担当教員 氏名: 中村 尚紀 松尾 祐子 鷹西 恒		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 前期	専門科目	実習	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 実習機関の機能に沿って、各領域の社会福祉の役割の理解を深める					
授業科目の学習教育目標の概要: ①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 ②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。 ③生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 ④施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 ⑤総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。					キーワード 現場実習、実習計画書・記録・報告書等の書き方、報告会
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
B 専門的技術	ソーシャルワークの専門技術を実習現場で活かすことができる。				
E 自己管理能力	事前学習、実習中の実習記録(日誌)の作成と提出、報告書の作成提出を適切に行う。				
F チームワーク・リーダーシップ	実習現場の職員との連携等を行うことができる。				
G 倫理観	ソーシャルワークの価値と倫理を元にした援助を実施できる。				
H コミュニケーション力	実習現場において、利用者やその家族、職員等とのコミュニケーションを実践できる。				
成績評価の方法・基準: 実習配属先での評価や実習記録等から総合的に判断する。					
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%
				実技試験:	%
				その他:	%
特記事項:					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション <b>実習、フィールドワーク</b>					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 11月中旬～下旬。60時間以上・9日以上 ※配属先の事情により時期が異なる場合がある。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 実習評価票(コピー)の返却とスーパービジョンを行う。					
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)	
				学習内容	学習に必要な時間(分)
・配属先の施設・機関のプログラムにそって、60時間以上・9日以上の実習を行う。				分野別の指導内容によって異なる	【予習】60分 【復習】60分
・この間担当教員による巡回指導が行われる。				実習場所の指示に従って学習を行う	【予習】60分 【復習】60分
本実習は社会福祉士及び介護福祉士法により規定された指定施設(実習機関)において、社会福祉士受験資格取得に必要な240時間以上のうち60時間以上の実習を行うことを目的としている。特に配属地域及び実習施設・事業所等において、以下の項目にて実習指導者による指導を受けるものとする。					
①利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成					
②利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成					
③利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価					
④多職種連携及びチームアプローチの実践的理解					
⑤当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ					
⑥地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解					
⑦施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際(チームマネジメントや人材管理の理解を含む。)					
⑧社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解					
⑨ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解					
使用テキスト: ソーシャルワーク実習指導要綱 最新社会福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習(中央法規) ISBN: 978-4-8058-8251-1				その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習は社会福祉の利用者の生活の場で行われる。このことを十分認識した上で臨んでほしい。実習は通勤または宿泊の形式で行い、配属先は学生の希望分野等を参考に教員が決定する(原則として)。					

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: ソーシャルワーク特講			担当教員 氏名: 鷹西恒、清水剛志、砂田大輔、岡本久子、大島淳一		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 後期	専門科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 講師は福祉現場の最前線で働いており、その実践経験に基づいてSOCIAL WORK と関連づけた授業を行う					
					キーワード
ソーシャルワーク実践の中でとくに注目されている取り組みや関連技術にスポットを当て、実践者による講義を聴くことで学習理解を深める。					情報支援技術、福祉工学、地域支援、福祉レク 富山型デイサービス、学校social work
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (短短マトリックスで示される番号) 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10			
A 知識・理解力		ソーシャルワークの実践内容等に触れることで総合的な知識力を高めることができる			
B 専門的技術		演習を行うことでソーシャルワークにおける視野、視界、視座の範囲を広げることができる			
C 論理的思考力		想起、研究、実践のプロセスを体験することで思考力を身につけることができる			
D 問題解決力		理論や技術を取り入れることで問題解決に至る力を身につけることができる			
G 倫理観		実践者の倫理観に触れることで自己の人格的成長を図ることができる			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート:	90 %	発表:	%
				実技試験:	%
				その他:	10 %
特記事項: その他とは授業の取り組み状況や態度のことである また、講義に演習が含まれる。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適時および期末レポート課題等が課せられる。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①【鷹西】オリエンテーション			9月21日(火)	講師毎に学習の振り返りを行う	
②【清水社会福祉士事務所 清水剛志】学校ソーシャルワーク概論(1)			9月28日(火)	講師毎に学習の振り返りを行う	
③【清水社会福祉士事務所 清水剛志】学校ソーシャルワーク概論(2)			10月5日(火)	講師毎に学習の振り返りを行う	
④【清水社会福祉士事務所 清水剛志】学校ソーシャルワーク概論※演習			10月12日(火)	講師毎に学習の振り返りを行う	
⑤【特養ホーム清楽園 砂田大輔】福祉レクリエーション学(1)※演習			10月19日(火)	講師毎に学習の振り返りを行う	
⑥【特養ホーム清楽園 砂田大輔】福祉レクリエーション学(2)※演習			10月26日(火)	講師毎に学習の振り返りを行う	
⑦【社会福祉法人くるみ 岡本久子】地域支援学概論			11月2日(火)	講師毎に学習の振り返りを行う	
⑧【社会福祉法人くるみ 岡本久子】地域支援学概論 ※演習			11月9日(火)	講師毎に学習の振り返りを行う	
⑨【県リハビリ病院 大島】アシスティブテクノロジー(介助支援技術)概論			11月30日(火)	講師毎に学習の振り返りを行う	
⑩【県リハビリ病院 大島】アシスティブテクノロジー(介助支援技術)概論			12月7日(火)	講師毎に学習の振り返りを行う	
⑪【県リハビリ病院 大島】アシスティブテクノロジー(介助支援技術)概論			12月14日(火)	講師毎に学習の振り返りを行う	
⑫【県リハビリ病院 大島】アシスティブテクノロジー(介助支援技術)概論			12月21日(火)	講師毎に学習の振り返りを行う	
⑬【鷹西】富山型デイサービス概論			1月11日(火)	講師毎に学習の振り返りを行う	
⑭【鷹西】宮崎アニメから学ぶソーシャルワーク ※講義			1月18日(火)	講師毎に学習の振り返りを行う	
⑮【鷹西】宮崎アニメから学ぶソーシャルワーク ※演習			1月25日(火)	講師毎に学習の振り返りを行う	
使用テキスト:			その他参考文献など:『宮崎駿再考:「未来少年コナン」から「風立ちぬ」へ』(平凡社新書) 村瀬学 『新スクールソーシャルワーク論(学苑社)』山下英三郎・内田宏明・牧野晶哲編著		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 配布される資料等の紛失に注意すること。指定する宮崎アニメを⑮講義前に鑑賞済であることが望ましい。					

## 社会福祉学科

## 社会福祉 専攻

科目名： 臨床美術			担当教員 氏名： 北澤晃、岡野宏宣			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門科目	演習	選択	臨床美術士5級
実務経験を用いてどのよ臨床美術士養成講座講師の資格を持ち、臨床美術士として福祉施設などでの臨床美術の実践を生かし、臨 うな授業を行っているか：床美術の基礎的知識やコミュニケーション方法、制作プログラムの理解について授業を行っている。						
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
右脳の活性化と認知症予防の関係を知り、他者との関係を深めるコミュニケーション空間をつくり出し、美術療法の技術を用いて生き生きとした活動を設定する力を身に付ける。また、主体的にロールプレイングなどアクティブ・ラーニングすることによって福祉施設などで活動する実践力を身に付ける。					・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション ・量感画	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 8.	
A 知識・理解力			右脳の活性化と認知症について理解することができる。			
B 専門的技術			状況や関係を把握して量感画などで表す基本的技術を習得する。			
D 問題解決力			「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。			
F チームワーク・リーダーシップ			リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。			
H コミュニケーション力			造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 0 %		レポート： 30 %		発表： 30 %		実技試験： 30 %
その他： 10 %						
特記事項：事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内の発言。実技試験はロールプレイングの理解と実践力。その他は積極性を指す。本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として福祉施設などを想定して学生同士におけるロールプレイングを行います。準備物：毎回の授業に持参してください。ハサミ、スティック糊、割り箸ペン、新聞紙(朝刊1日分)、ウェットティッシュ、クロッキー帳鉛筆2Bか4B						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：発表・実技は毎時間毎に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法： 課題提出時に振り返りのコメントを伝える。						
使用テキスト：『臨床美術士養成講座5級』、芸術造形研究所『臨床美術-痴呆治療としてのアートセラピー』、芸術造形研究所				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ・本科目は一日に2コマや3コマ続けて行う科目になります。また開講日時も不規則なため、授業日をよく確認してください。 ・オイルパステルの特性を知り、自分自身が楽しめるようになるために、継続的に描き続けてみる必要があります。						
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)	
					学習内容	
					学習に必要な時間(分)	
回数						
1	【岡野】授業ガイダンス			10月4日	【予習】：自己紹介文(ガイダンスで配布)	
2	【北澤】臨床美術基幹Ⅰ-①			10月11日		
3	【北澤】臨床美術入門Ⅰ「五感のアナログ画」			10月11日		
4	【岡野】存在論的人間観			10月18日		
5	【岡野】臨床美術入門Ⅰ「りんごの量感画」			10月18日		

※前ページよりつづき

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名: 臨床美術		担当教員 氏名: 北澤晃、岡野宏宣	
授 業 計 画		準備学習(予習・復習等)	
		学習内容	学習に必要な時間(分)
6	【北澤】臨床美術入門Ⅰ「ジェスチャー画」	10月25日	
7	【北澤】臨床美術入門Ⅰ「立体かぼちゃ」	10月25日	準備物: 作品を持ち帰るための袋
8	【岡野】臨床美術コミュニケーションⅠ「ギャラリートーク」	11月1日	
9	【岡野】臨床美術コミュニケーションⅠ 「私の感性地図」「鑑賞会」	11月1日	【予習】・私の感性地図 ・りんごの量感画
10	【北澤】臨床美術実践の基礎「アナログクロッキー演習」	11月8日	準備物: 鉛筆(2Bか4B)
11	【岡野】臨床美術実践の基礎「りんごの模刻」	11月29日	
12	【岡野】臨床美術実践の基礎「りんごの量感画」	11月29日	
13	【北澤】臨床美術コミュニケーションⅠ 「二人で描くアナログ画」	12月6日	【予習】: アナログ日記①
14	【北澤】臨床美術コミュニケーションⅠ 「現場セッションについて」	12月6日	【予習】: 書籍『臨床美術』の感想文
15	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイングに向けて試作」	12月13日	準備物: さつま芋(紫芋以外で) 和紙セット(試作で使用) 【予習】: 修正輪郭画・ゴッホの素描 ・りんごを描く4種
16	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイングに向けてリハーサル」	12月13日	準備物: さつま芋(紫芋以外で)
17	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイング①」	12月20日	準備物: さつま芋1個+α
18	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイング②」	12月20日	
19	【北澤・岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイング」「総括」	1月17日	【予習】: アナログ日記② 準備物: 臨床美術協会資格認定申請書 (課題をすべて提出している方)
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

## 社会福祉学科

## 社会福祉 専攻

科目名: 表現アート演習 I			担当教員 氏名: 北澤 晃		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門科目	演習	選択	
実務経験を用いてどのよ うな授業を行っているか: アートプログラムを用いた意味生成ケアの現場実践(臨床美術士としての実務経験)にもとづいて、様々な状況・状態 の方々に、アートに触れることでの多幸感を味わうことができるように視点の提供をする。					
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
他者とのコミュニケーションの場において、様々なアートプログラムに取り組み楽しむ。主に色鉛 筆やオイルパステルなどの描材を用いたプログラムを体験し、表現の楽しさについて感じ、考 え、行為することで、意味生成の表現を捉えなおす。				・アートプログラム・脳の活性化 ・「つくり、つくりかえ、つくる」(意味生成) ・コ ミュニケーション ・他者理解 ・存在論的人間観・ナラティブ	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8.	
A 知識・理解力		アートプログラムの成り立ちを理解する。			
B 専門的技術		色鉛筆・オイルパステルを中心画材として楽しんで表現する。			
D 問題解決力		表現の楽しさについて、感じ、考え、行為することで意味生成の表現を捉えなおす。			
H コミュニケーション力		表現を通して自己への理解を深めつつ、他者の表現を理解しようとする姿勢をもつ。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート: 70 %	発表: 30 %	実技試験:	%
特記事項: アクティブラーニングによる学びを重視することから、現場実践をするための臨床美術士セッション体験会に加わりながら、実践的に 学ぶ。『レポート 70%』は、各課題の学びをまとめたファイル(ポートフォリオ)である。『発表 30%』は、各回の授業等における各自の振り返り のコメントである。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各プログラムごとに学びを整理・記録したファイルを作成し⑬の授業にて提出。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 毎回の授業においてコメントする。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な 時間(分)	
①【ガイダンス】学習目標、学習内容、アートプログラムについて			振り返りとポートフォリオ作成	30	
②アートプログラム1演習			振り返りとポートフォリオ作成	30	
③アートプログラム1演習の振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
④アートプログラム2演習			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑤アートプログラム2演習の振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑥アートプログラム3演習			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑦アートプログラム3演習の振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑧アートプログラム4演習			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑨アートプログラム4演習の振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑩アートプログラム5演習			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑪アートプログラム5演習の振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑫アートプログラム6演習			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑬アートプログラム6演習の振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑭自己の学びの総括Ⅰ部(発表)			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑮自己の学びの総括Ⅱ部(発表)			振り返りとポートフォリオ作成	30	
使用テキスト: 特に設定しない。			その他参考文献など: 特に設定しない。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): <b>【準備品】スケッチブック、18色の色鉛筆と臨床美術専用オイルパステルを購入する。</b>					

## 社会福祉学科

## 社会福祉 専攻

科目名: 心理学基礎実験			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	1年次	後期	専門科目	演習	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
心理学実験の実践を通して、仮説を立て、実験計画を立案し、データを収集・分析し、論文として報告する専門的技術を習得する。					バイアス、実験の統制、精神物理学的測定法、心理尺度、独立/従属変数				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		3. 6.				
A 知識・理解力			心理学実験の基礎知識を身に付ける						
B 専門的技術			心理学実験を立案・実施する専門的技術を習得する。						
C 論理的思考力			人間の行動や心理について科学的に考える思考力を身に付ける。						
D 問題解決力			問題を同定し、仮説を立て、必要な情報を収集分析し、問題を解決できる。						
H コミュニケーション力			情報を的確にまとめ、わかりやすく説明できる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	100 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: 実際に心理学実験を行いながら、得られたデータを分析し、論文スタイルのレポートにまとめるアクティブラーニングで学ぶ。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習    ディスカッション、ディベート    グループワーク <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 10種の実験それぞれにレポートを課す(10%×10)。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 実験レポートを評価し、その都度返却する。									
使用テキスト: 指定テキストはありません。関連資料を授業時に配布しますが、レポート作成に必要な資料は、自ら図書館等で収集してください。				その他参考文献など: 心理学実験ノート編集委員会(著)心理学実験ノート第5版[二瓶社]; 西口利文・松浦均(著)心理学基礎演習vol.1心理学実験法・レポートの書き方[ナカニシヤ出版]					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 「実験」を学ばずして心理学を学んだとはいえません。心理学教育の最重要科目です。心理学実験を体験し、実験技術を習得することによって、心理学の知識が生きたものとなります。アクティブラーニングで学びます。									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
回数									
1	心理学実験のオリエンテーション(実験の進め方・注意事項・レポートの作成方法等について)				参考文献など心理学実験について書かれた本を読む	30			
2	顔面フィードバック: 実験の実施								
3	(1)ミューラー・リヤー錯視: 実験の実施				錯視についての資料を収集し、錯視の実験レポートを作成する	180			
4	(1)ミューラー・リヤー錯視: データ分析								
5	レポートの作成指導				錯視についての資料を収集し、実験レポートを修正する	90			

※前ページよりつづき

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名： 心理学基礎実験		担当教員 氏名： 竹ノ山 圭二郎	
授 業 計 画		準備学習(予習・復習等)	
		学習内容	学習に必要な時間(分)
6	レポートの改稿	錯視についての資料を収集し、実験レポートを修正する	90
7	(2)触二点閾:実験の実施	感覚測定についての資料を収集し、触二点閾の実験レポートを作成する	180
8	(2)触二点閾:データ分析		
9	(3)奥行き知覚:実験の実施	奥行き知覚についての資料を収集し、実験レポートを作成する	180
10	(3)奥行き知覚:データ分析		
11	(4)仮現運動:実験の実施	仮現運動に関する資料を収集し、実験レポートを作成する	180
12	(4)仮現運動:データ分析		
13	(5)心的回転:実験の実施	心的回転に関する資料を収集し、実験レポートを作成する	180
14	(5)心的回転:データ分析		
15	(6)印象形成:実験の実施	印象形成に関する資料を収集し、実験レポートを作成する	180
16	(6)印象形成:データ分析		
17	(7)記憶のメカニズム-系列位置効果:実験の実施	系列位置効果に関する資料を収集し、実験レポートを作成する	180
18	(7)系列位置効果:データ分析		
19	(8)無意識の情報処理:ストループ効果:実験の実施	ストループ効果に関する資料を収集し、実験レポートを作成する	180
20	(8)ストループ効果:データ分析		
21	(9)概念ネットワーク:プライミング効果:実験の実施	プライミング効果に関する資料を収集し、実験レポートを作成する	180
22	(9)プライミング効果:データ分析		
23	生理的指標(心拍)を用いた実験の概要	生理的指標を用いた実験に関する資料を収集し、実験デザインを作る	30
24	生理的指標(心拍)を用いた実験のデザイン		
25	生理的指標(心拍)を用いた実験のデザイン	生理的指標を用いた実験に関する資料を収集し、実験レポートを作成する	180
26	(10)生理的指標(心拍):実験の実施		
27	知覚と行為のアフォーダンス-「くぐり」と「またぎ」:実験の実施	アフォーダンスに関する資料を収集し、まとめる	30
28	知覚と行為のアフォーダンス-「くぐり」と「またぎ」:データ分析と考察		
29	パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料作成	実験データを用いてパワーポイント・プレゼンテーション資料を作成する	30
30	パワーポイントを用いたプレゼンテーション技法		

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: 心理学基礎実習			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	後期	専門科目	演習	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
心理学調査の技術を習得し、自ら心理学調査を立案し、データを収集・分析し、得られた成果を社会に向けて公表する力を身に付ける。					調査、心理尺度、サンプリング、信頼性と妥当性、因子分析				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 6.				
B 専門的技術			心理学調査を立案・実施する専門的技術を身に付ける。						
C 論理的思考力			人間の行動や心理について科学的に思考する力を身に付ける。						
D 問題解決力			問題を同定し、情報を収集・分析し、解決策を提案できる。						
F チームワーク・リーダーシップ			目標のために他者と協調し、リーダーシップを発揮することができる。						
H コミュニケーション力			情報を的確にまとめ、わかりやすく説明・報告できる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: 調査計画レポート(40%)と調査結果発表(40%)および調査実施に向けた貢献度(20%)に基づいて成績評価を行う。実際に調査計画を立案し、調査を実践するアクティブラーニングで学ぶ									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習: ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表は第8回と第15回に行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と期末にフィードバックする。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①心理学基礎実習のオリエンテーション(実習の進め方等について)				心理学的調査	30				
②心理学調査法1(データ収集の方法)				データ収集の方法	30				
③心理学調査法2(質問紙の作成法)				質問紙の作成	30				
④心理学調査法3(結果の処理方法)				結果の処理	30				
⑤心理学調査の計画立案				調査のテーマ	30				
⑥文献調査				調査テーマに関する文献調査	60				
⑦心理学調査計画発表の準備				調査計画の立案	60				
⑧心理学調査計画発表				調査計画の発表資料作成	60				
⑨予備調査の準備				予備調査の検討	30				
⑩予備調査の実施				予備調査の実施準備	60				
⑪質問紙の作成				質問紙の作成	60				
⑫心理学調査の実施				本調査の実施準備	60				
⑬調査結果の分析				結果についての文献調査	120				
⑭調査結果発表の準備				調査結果のまとめ	60				
⑮調査結果の発表				発表資料作成	120				
使用テキスト: テキストは不要。必要な資料等は授業時に提供します。				その他参考文献など: 鎌原・宮下・大野・中澤(編)心理学マニュアル質問紙法[北大路書房]					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): グループで協力して、自分たちの問題意識に基づいて、心理学的な調査計画を立案し、実際に実施してデータを収集し、結果を分析・報告します。グループへの貢献度も発表の評価対象に含まれますので、積極的に参加してください。アクティブラーニングで学びます。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: カウンセリング基礎理論			担当教員 氏名: 石黒 真弓						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	1年次	後期	専門科目	講義	選択	福祉心理士			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			心療内科や学校、施設でのカウンセリング経験を基に事例を検討します。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
カウンセリングの基礎知識を学び、他者との信頼関係や他者理解を深める					カウンセリング 信頼関係				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			カウンセリングについて活用法を理解する。						
D 問題解決力			状況にあった解決法を身につけ、問題解決に努める。						
F チームワーク・リーダーシップ			福祉社会に生きる一員として、他者と協力し目標実現に努める。						
G 倫理観			自らを律し、他者を尊重する倫理観を身につける。						
H コミュニケーション力			言語以外でも他者理解を深めるスキルを身につける。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	30 %	実技試験:	%	その他:	30 %
特記事項: カウンセリングの理論や方法などをグループで再確認し、自ら発言することによってより理解を深めます。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第1回の授業時に説明します。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 評価をつけて返却します。									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
①①カウンセリングの定義					カウンセリングの重要性を整理	120分			
②カウンセリングのプロセス					専門用語を確認しよう	120分			
③カウンセリングの社会的責任と倫理					専門用語を確認しよう	120分			
④来談者中心カウンセリングの理論					理論をまとめてみよう	120分			
⑤来談者中心カウンセリングの方法					プロセスを理解しよう	120分			
⑥認知行動カウンセリングの理論					理論をまとめてみよう	120分			
⑦認知行動カウンセリングの方法					プロセスを理解しよう	120分			
⑧精神分析的カウンセリング					要点を整理しよう	120分			
⑨フォーカシング					実施要項を整理しよう	120分			
⑩交流分析					実施要項を整理しよう	120分			
⑪構成的グループエンカウンター					実施要項を整理しよう	120分			
⑫芸術療法					分析方法を整理しよう	120分			
⑬まとめ①					事例を基にプロセスを振り返ろう	120分			
⑭まとめ②					事例を基に理論をまとめよう	120分			
⑮総括									
使用テキスト:					その他参考文献など: カウンセリングの理論				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 2年前期の「カウンセリング基礎演習」の受講を希望する学生は、必ずこの科目を受講してください。									

## 社会福祉学科

## 社会福祉 専攻

科目名: 心理検査法			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのよ心理臨床の実務経験に基づき、心理臨床の実践に必要な心理検査の概要について、体験的に学ぶ授うな授業を行っているか: 業展開を行っている。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
心理検査の基礎を学び、人間の多様な心理を客観的に根拠をもって理解するための技術の基礎を習得し、自らを客観的に捉える力を養う。					知能検査、発達検査、脳機能検査、性格検査	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.	
A 知識・理解力			心理検査の基礎知識を身に付けている。			
C 論理的思考力			人間の行動や心理について科学的、客観的に理解できる。			
E 自己管理能力			自己を客観的に見つめ理解し、自らを律することができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %		レポート: 40 %		発表: %	実技試験: %	その他: 20 %
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 詳細は初回時に説明する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と期末にフィードバックする。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①心理検査実施時の注意事項、倫理規定および報告書の書き方。				心理・福祉における倫理規定を調べる。		30
②知能検査1:ピネー式知能検査				ピネー式知能検査についてまとめる。		60
③知能検査2:ウェクスラー式知能検査				ウェクスラー式知能検査についてまとめる。		60
④知能検査3:その他の知能検査				知能検査について復習する。		60
⑤性格検査1:質問紙法検査				質問紙法性格検査についてまとめる。		60
⑥性格検査2:投影法検査				投影法性格検査についてまとめる。		60
⑦性格検査3:作業検査法検査				作業検査法性格検査についてまとめる。		60
⑧知能検査と性格検査のまとめ				レポートをまとめる。		60
⑨乳幼児の発達に関する検査				発達検査についてまとめる。		60
⑩行動・社会性に関する検査および親子関係に関する検査				行動・社会性に関する検査についてまとめる。		60
⑪言語発達に関する検査				失語症検査についてまとめる。		60
⑫知覚・感覚に関する検査				知覚に関する検査についてまとめる。		60
⑬記憶に関する検査				記憶検査についてまとめる。		60
⑭高次脳機能検査				高次脳機能検査についてまとめる。		60
⑮全体のまとめ				総復習をする。		120
使用テキスト: テキストなし。必要な資料等は講義時に配布する。				その他参考文献など: 松原達哉(編)心理テスト法入門第4版—基礎知識と技法習得のために—[日本文化科学社]		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 心理・福祉の領域で用いられている各種心理検査について学び、体験しながら、心理アセスメントの基礎を学びます。体験学習によるアクティブ・ラーニングで学びます。						